
俺が守ってやるよ

発波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺が守つてやるよ

【Nコード】

N8482I

【作者名】

発波

【あらすじ】

少年ハツカを守るべく、ジンとKは化け物のいる街へ。そこで待っていたのは……！めぐりあいが謎を呼ぶ。これから何が起るのか、誰も知らない。

魔王さまのデザート02

段々と落ち着いてきたらしい

「う、うめんなさい…」

ジ「謝らなくていい。…落ち着いてきたか？」

「はい、けほっ」

K「無理しないでね。あそうだ。自己紹介遅れたね、俺はK。この主の秘書兼親友をやってるよ」

ジ「俺はジン。この城の主だ。職業は化け物ハンター、とても名乗っとくか。」

「Kちゃ、んと…じん」

ジ（なんか名前呼ばれるだけできゅんきゅんくるんすけど！）
↑

K「きみは、？」

ハ「は、…ハツカ…」

ジ「ハツカか、いい名だ。」

ハ「ん、…おかあさんが、けほっけほ、」

K「大丈夫？まだ寝てた方がいいね、」

ハ「な、んで…こうなっちゃったの…？」

ジ「…」

ハ「なんで、…みんな、な…こわ、くなっ…げほっ！」

K「ハツカちゃん！もうしゃべらないで！」

ハ「っ、…う」

ジンはまた泣き出すハツカを抱き寄せた

ジ「俺が必ず守ってやるから。あの街もお前も。」

ハ「…っ、ん…」

ジ「だから、今はゆっくり寝てろ。…な？」

ハ「…は、い…」

ジ「K、いくぞ」

K「：おう、」

大切なものを守ろうとするふたつの背中が
ハツカに見えた

□
□
□
□
□
□

流「．．行くのか？」

K「流、ハツカちゃんよろしく」

流「ああ」

ジ「…」

K「（ハツカちゃんにベタ惚れみたい）」

流「あのジンが．．？」

ジ「おい、そこ。聞こえてるぞ」

流「まあいい。愛車の方も点検終わってるし、お前らの相棒も研いでおいたよ」

K「さすが、流」

ジ「さんきゅな、流」

Kは二刀の刀を、ジンはふたつの銃を手にとり
それぞれ身につけた

そして2人は愛車のジープに乗り込む。
運転するのはKだ

ジ「留守とハツカを頼む」

流「おおせのままに。」

K「じゃ、いくよ」

流「いつてらっしゃいませ、主。」

鴉たちがジープに驚き、飛び回った

気味の悪い鳴き声と共に。

□
□
□
□
□
□

「街」

夕方、街にたくさんの松明の火が灯った

『お頭、…ガ、き一匹・逃し、た』

さきほどハツカを追いかけていた化け物が
長身の男に言った

その男は美形で紳士のような服装をし
いかにも人間のようなようだった

頭「……やはりここにいたのか。」

『…マオーの、息子にとら、れた…』

頭「なんだと!?!」

男は血相を変え、怒りに震えた

頭「ジン…、」

紅い羽が舞った

□
□
□
□
□
□

ジ「なんか、いやな予感がする」

K「じゃーそうなるんじゃない？」

ジ「…そうなってほしくねえよばか。」

K「とつとと終わらせよ」

ジ「はやく帰ってそばにいたいからな」

K「はいはい。．．見えてきた」

もう少しで街につくと思いきや
いきなり化け物たちが
ジンたちの前にでてくる

まるでホラー映画だ。

K「ジン！」

ジ「おう、相変わらず気色わりいなあ！」

《バン！バン！

ジンが化け物めがけて撃ちまくる
すると当たった化け物たちは砂状に消えていった

ジ「今日も絶好調♪！」

しかし大量に出てくる化け物たちに
うざくなったKは

K「っあーもう！突っ込むよ！！ジン！」

ジ「はああ！？」

化け物たちに突っ込んで行った

ブチブチとつぶれていく化け物たちに
ジンは吐きそうになった

——Kはある意味手強えやつかもしれない……

K「楽し。」

この状況下で笑えるKが
一番こわい。

なんかかんやで
無事街の広場まで到着。

ジ「もうちょっと安全運転しろっつーの」

K「楽しかったじゃん」

ジ「そおゆう問題じゃねんだよ」

2人でぐちぐちもめていると
いきなり衝撃波が襲ってきた

ジ・K「「！」「！」

すかさず避けた2人の前にハットをかぶった長身の男が歩いてきた

その後ろには

赤く染まった翼が生えていた

紅い翼は堕天使の証。

悪魔か天使ではなくなった証。

ジンはそいつを知っていた。

ジ「…キール、」

キール「覚えていてくれたのか、…ジン。」

K「ジン、」

ジ「俺が『あっち』に送りつけた悪魔だ」

キ「まさかもうお前に会えるとはなあ？」

ジ「なんでここにいる!!」

キ「ある方が俺を助けてくれたのさ。」

『あつち』から戻ってこれるわけがない。
なぜキールを助けられたのか。

キ「ま、そんなことはどうでもいい。あの子どもを俺に渡せ!」

K「ハツカちゃんのことか」

ジ「渡さない! ぜってえにな」

キ「なら、力ずくだ。…いけ!」

化け物たちが一斉に2人に襲い掛かる

ジ「ちっ、」

K「ざつと3分だな」

ジ「…ああ!」

Kは見事な剣さばきで化け物を倒していく

一方、

ジンも2丁の銃で化け物を砂と化させていく

そして

just 3分で辺りには

なにもいなくなった

ただ砂があるだけ

残ったのは

頭のキールだけ。

キ「くっ！」

ジ「さて、もう一度送り付けてやるよ。」

キ「ここで捕まるのはごめんだ！！」

先ほどと同じ衝撃波が2人を襲う。

2人が避けたときには
もう

キールの姿はなかった

ただ紅い羽が散らばっていた

ジ「くそ！」

K「ジン、まず帰ろう。」

ジ「ああ、」

雲が晴れ、明るい月が
街を照らしていた。

しかし、

ジンの頭の中は
謎でいっぱいだった

これからどんなことが起こるのかは
誰も知らない。

□
□
□
□
□
□
□

『…………おいしそうなニオイがスル、』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8482i/>

俺が守ってやるよ

2010年10月28日00時53分発行